

富山県C級重点 ルールテスト

氏名

点数

・ IOT(インディビジュアルオフィシェーティングテクニック) を5つ答えよ。 1問 5点
(順不同)

①

②

③

④

⑤

1問 10点

⑥	<p>ゲーム終了間際にA1が5個目のファウルを宣せられプレーをする資格を失った。これ以上プレーができる交代要員がないチームAは、4人のプレーヤーのみでゲームを続けることができる。チームBは大差でリードしており、ヘッドコーチ Bは公平にゲームをすることを主張し自チームも4人でゲームを続けさせるためプレーヤーを1人コートから退かせた。</p>	
⑦	<p>チームAにスローインが与えられ、ゲームクロックまたはショットクロックには、0.2秒あるいは0.1秒が表示されている。得点が認められるゴールは、スローインでパスされたボールが空中にある間に、タップされたか、直接ダンクされた場合のみである。その場合でもゲームクロックまたはショットクロックに0.0秒が表示されたときにはプレーヤーの片手または両手はボールに触れていてはならない。</p>	
⑧	<p>第4クォーター残り1:02、ショットクロック20秒でA1がバックコートでボールをコントロールしているとき、B2がボールに触れ、チームAのバックコートのアウトオブバンズにボールが出された。チームAにタイムアウトが認められ、チームAのヘッドコーチがフロントコートのスローインラインからゲームを再開することを決めた。ショットクロックオペレーターはショットクロックの表示を14秒にリセットした。</p>	
⑨	<p>A1のショットのボールが空中にあるときにショットクロックのブザーが鳴り、B2がテクニカルファウルを宣せられたあと、ボールはリングに触れたがバスケットには入らなかった。誰もリバウンドの位置に着かずに1本のフリースローがチームAのいずれかのプレーヤーに与えられる。ゲームの再開はジャンプボールシチュエーションとなるため、アローがチームAを示していた場合、ブザーの後にボールがリングに触れているがチームAのショットクロックバイオレーションとなり、チームBのバックコートからスローインのボールがチームBに与えられ、ショットクロックは24秒となる。</p>	
⑩	<p>ディスクォリファイングファウルとは、プレーヤーや、チームのチームベンチ座ることを許された人物による著しくスポーツマンらしくない行為に適用される。対象としては相手チーム、審判、テーブルオフィシャルズ、コミッション(同席している場合)、自チームのメンバーに対する行為、意図的に用具・器具を破損する行為が対象となり、観客に対しての行為は罰則を与えることはできない。</p>	

・ テーブルオフィシャルズの配置を答えよ。

プレーイングコート

1問 5点

